

君の名は

「君の名は」の主役、氏家真知子が振り当てられた時には困惑した。人気ナンバーワンの津島恵子さんが「ひめゆりの塔」の沖縄ロケで不在だったので仕方なく回ってきた

私の履歴書

子 恵 岸

⑪

メロドラマの神髄を会得

大ヒット、町を歩けば人の山

のだが、どう考えても私ではミスキャストだと思った。

「そうだよなあ。恵子ちゃんの顔見て、観客が泣くかなあ。これは社運を賭けて作る大メロドラマなんだよ」

「風船ゴリラ」とあだ名を付けたプロデューサーの山口松三郎さんがお相撲さんのよ

うな体をこめて私の顔を眺めた。その懸念を吹き飛ばすように観客は泣いてくれた。

思わぬ大ヒットとなり、松竹は本社ビルを建て、相手役の佐田啓二さんと私はご褒美としてオメガの時計を頂いた。

「君の名は」の成功は大庭秀雄監督のすてきな人柄が多

大庭監督はすれ違いばかりのメロドラマを俗に落とさず風格を持った作品に仕上げた。スタッフは常に明るく、佐田さんや私もその雰囲気作りに寄与したかもしれない。メロドラマを撮るスタッフはサバサバと明るかった。後

島へ渡る船で真知子が泣くシーンで突然、涙を誘うような悲しげな音楽が流れたので私は吹き出してしまった。

「音楽止めて」。大庭監督の目に了解の色が浮かんだ。

この瞬間、私という女優の本質がつかめた。大庭監督は何かに書かれていた。感情移入のために流してくれた音楽だったのに、そんな思いやりが私には照れ臭かったのだ。

せるのは泣かせるよりも難しいんだ」と山田洋次監督の真剣な面ざしに感じ入った。

山田監督は「たそがれ清兵衛」で私にナレーション全編と清兵衛の次女の老年期を任せてくださった。私のしゃが

れ声にナレーションを任せてくれたのは山田さんと今野勉さん（テレビマンユニオン最高顧問）の2人だけである。うれしかった。

約10年前、人を結ぶのに熱心だった津川雅彦さんが催した会食で佐田さんの長男、中井貴一さんに初めて会った。

「『君の名は』のおかげで私は松竹メロドラマの神髄、物憂い肢体の動き、伏し目がちな視線などを会得した。けれど奪われたものも甚大だった。町を歩けば



「君の名は 第三部」（1954年、大庭秀雄監督）で佐田啓二さんと松竹提供

小林正樹監督の「壁あつき部屋」

た。町を歩けば人の山。ベタベタと体を触られる。襟で顔を隠して人混みを猛烈な速さで歩くのも性に合わないかった。

さんもう席で貴一さんが言った。佐田さんは時として芸能人が持つ非常識で破天荒な言動とは無縁で常に良識ある社会人だった。何かと気を配

である。巣鴨拘留所に服役したBC級戦犯の実話で私は火葬場の火夫を父に持つ娘役。10代のおぼこな娘が赤線地帯に落ちるまでを演じた。涙に暮れる真知子から激しく豹変する女をどう演じるのか。消滅しかけていた私の闘志に火が付いた。（女優）